

(素案)

474 4. 学校施設の複合化の特徴と取組事例

475 以下、前節の実施状況調査等で見られた学校施設の複合化の特徴として、その効果や
476 課題と、その効果的な取り組みや課題への対応事例について示す。

477

478 (1) 学校施設の複合化の効果と課題

479 <効果>

480 ① 施設機能の共有化による学校施設の高機能化・多機能化

481 複合化により、単独の学校で整備するよりも施設機能が高機能化・多機能化することによ
482 り、児童生徒や地域住民に多様な学習環境を創出するとともに、公共施設を有効的に活用
483 することができる。

484

485 ② 児童生徒と施設利用者との交流

486 学校と他の公共施設等が併設しているという特徴を活かし、学校と他の施設との間で交流
487 の機会を設けたり、日常的に互いの施設での活動等を目にすることで、児童生徒と地域住
488 民等との交流を深めることができる。

489

490 ③ 地域における生涯学習やコミュニティの拠点の形成

491 学校と社会教育施設等との複合施設では、児童生徒の学びの場としてだけでなく、地域
492 の人々の生涯学習の拠点施設として、地域のコミュニティ形成にも寄与する。

493

494 ④ 専門性のある人材や地域住民との連携による教職員の負担軽減

495 様々な人材が集まるという特徴を活かし、学校活動や課外活動などに専門性のある人材
496 や地域住民を活用するなど、児童生徒に従来より高度な専門知識に触れる機会を創出した
497 り、教職員の負担軽減を図ることができる。

498

499 ⑤ 効果的・効率的な施設整備

500 学校施設や公共施設を単体で整備するよりも、複数の施設を複合施設として一体的に整
501 備したり、既存学校施設等を活用することにより、費用の削減や支出の平準化を図ることが
502 できる。

503

504

505 <課題>

506 ① 地方公共団体内の部局間の連携、教職員や地域住民との合意形成

507 学校施設と他の公共施設との複合化にあたり、地方公共団体内では各公共施設を所管
508 する複数の部局が連携し、域内の公共施設の整備計画や、個別の複合化した学校施設と
509 他の公共施設との施設計画、管理・運営方法等について検討することが重要である。また、
510 教職員や地域住民の意見を聴く機会を設けるなど、学校施設の複合化について理解と協
511 力を得ることが必要となる。

512

513

(素案)

514 ②施設設計上の工夫

515 学校施設の複合化に当たっては、地域の実情に応じ、以下に示すことなどを総合的に判
516 断し計画・設計することが求められる。

517

518 ・安全性の確保

519 複合施設には児童生徒や学校関係者だけでなく、不特定多数の地域住民が施設を利用
520 する場合もあることから、児童生徒が安心して学校生活を送れるように、また、地域住民も安
521 心して利用できるように、地域の実情に応じ、ハード・ソフトの両面から対応策を検討する必
522 要がある。

523

524 ・他施設への支障の緩和

525 他の施設が隣接していることで、児童生徒と他の施設利用者との動線の交錯や、互いの
526 音などにより、学校活動や他の施設の活動が阻害される可能性があることから、各施設の配
527 置や動線、防音性の確保等の配慮が必要となる。

528

529 ・管理区分や会計区分の検討

530 複合施設においては、各施設間の相互利用・共同利用が活発となることから、専用部分
531 や共同利用部分の管理区分や、施設利用料や光熱水費等の会計区分等の明確化や一元
532 化の可否等について検討が必要となる。

533

(素案)

534 (2)複合化の効果的な取組事例

535 ①施設機能の共有化による学校施設の高機能化・多機能化

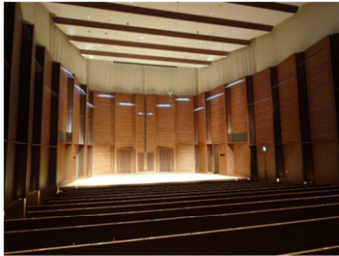
536 複合化により、単独の学校で整備するよりも施設機能が高機能化・多機能化することによ
537 り、学校教育環境の質の向上や公共施設の効果的な活用が図られている事例があった。

538
539 ・複合化した文化センターを活用し、音楽ホールでの音楽発表会や、プラネタリウムでの学習、
540 和室での茶道体験など特色ある教育活動を行っている。(3. 品川区立第一日野小学校)

541 ・小学校に図書室は設けず*、資料の豊富な公共図書館を活用。本の貸出しサービスを利用する
542 だけでなく、授業でも1日約3クラスが図書館を利用している。(8. 志木市立志木小学校)

※校内の各階には、各学年の学習状況に応じた本を揃えたチャレンジコーナーを設置

543
544 ・中学校と社会体育施設の複合化では、学校に体育館は設けないものの、社会体育施設の体育館
545 を中学校での利用を優先とし、授業や部活動に活用している。(14. かほく市立宇ノ気中学校)



552 音楽ホールを含む区立文化センター等
と複合化(品川区立第一日野小学校)



児童書コーナーを広く設けた市立図書館
等と複合化(志木市立志木小学校)



町で唯一、正式なバスケットボールコート
を2面有する体育施設との複合化
(かほく市立宇ノ気中学校)

(素案)

553 ②児童生徒と施設利用者との交流

554 同一建物に併設されているという関係性を活かし、学校と他の施設との間で交流の機会
555 を設けている学校があった。また、児童生徒と利用者との直接的な交流はなくとも、日常的
556 に他施設での活動等を目にすることで、地域とのつながりが感じられる学校があった。

557

558 (施設間の交流)

559

560 ・休憩時間を利用して児童が公立図書館で本の貸出し業務を手伝ったり、公民館の利用団体が小
561 学校の部活動の指導をボランティアで行ってくれている。(8. 志木小学校)

562 ・中学校の体育祭に保育園児が参加したり、中学生が保育体験として絵本の読み聞かせをしたり
563 と、施設間の交流が生徒の情操教育としても役立っている。(6. 世田谷区立砧南中学校)

564 ・児童がデイサービスで高齢者と折り紙等を一緒にしたり、歌や演奏を披露したりと、授業の一
565 環として施設間の交流を積極的に実施している。(11. 宇治市立小倉小学校)

566



567 陶芸教室で交流する児童と地域住民
568 (いろは遊学館提供)



569 中学校の体育祭に保育園児も参加
570 (世田谷区教育委員会提供)



571 デイサービスセンターで交流する児童と高齢者
572 (宇治市教育委員会提供)

573

574

575 (日常的な交流)

576 ・施設間の交流は少ないが、児童は日常的に地域住民が社会教育施設で活動する姿が見え、社会教育
577 施設からも学校の様子が見えるなど、相互の活動に対する理解・関心を高められている。(2. 台東
578 区上野小学校)

579 ・高齢者福祉施設の窓から中学校のグラウンドの様子が間近に見られるため、地域の高齢者が新しい
580 世代との繋がりを感ずることができている。(7. 京都市立京都御池中学校)

581 ・学校施設と公民館とが中庭を挟んで向かい合っており、中庭が両施設の交流空間であるとともに、
582 日常的にも中庭を挟んで互いの活動を目にできる空間ともなっている。(8. 志木市立志木小学校)

583

584

585

586

587

588

589



見える



敷地入口から昇降口までのアプローチ動線から体育館や
プールの様子を見ることができる (台東区立上野小学校)



高齢者福祉施設からは中学校のグラウンド
の様子が見える (京都市御池中学校)

(素案)

590 ③地域における生涯学習やコミュニティの拠点の形成

591 学校と社会教育施設等との複合化施設では、児童生徒の学びの場としてだけでなく、地
592 域の人々の多様化する学習需要などにも応える、地域における生涯学習やコミュニティ形
593 成の拠点施設としての役割を担っている事例があった。

- 594 ・小学校、幼保一体施設、教育センターといった教育施設と、音楽ホール・プラネタリウム・貸スタジオ等の文化施設が集約
595 された、地域の教育・文化活動の拠点施設となっている。(3.品川区立第一日野小学校)
- 596 ・小中学校と公民館が一体となった複合教育施設は、学校教育はもとより、地域住民の生涯学習・交流活動の拠点として、魅
597 力ある村づくりの促進と村の将来を担う人材の育成を担っている。(15.南砺市立利賀小中学校)
- 598 ・特別支援学校と児童発達支援センターとが連携することで、乳幼児から義務教育段階の子供たちまで、継ぎ目のない福祉的
599 支援と教育機会を提供する、地域の特別支援教育の核となっている。(12.十日町市立十日町小学校)
- 600 ・コミュニティの生まれにくい新しい住宅地において、小学校を中心に公民館や高齢者福祉施設、児童福祉施設などを複合的
601 に整備することで、地域のコミュニティ拠点となることが期待されている。(9.吉川市立美南小学校)



602 幅広い年代に利用されている
603 文化センターのプラネタリウム
604 (品川区立第一日野小学校)



605 地域の生涯学習・
606 交流活動の拠点となるホール
607 (南砺市立利賀小中学校)



608 小学校、特別支援学校、発達支援センター
609 が併設し、地域の特別支援教育の核と
610 となっている(十日町市立十日町小学校)

611 (TOPIC)東日本大震災の被災地における学校施設の複合化に関する取組

612 被災地において、学校を核にまちの再生を図ろうとしている計画もみられ、学校を含めた複数
613 の公共施設について複合施設として新たに整備しようとしている地方公共団体もあった。

614 【釜石市】かまいし未来のまちづくりプロジェクト

615 市の南部に位置する唐丹地区及び北部に位置する鶴住居地区において被災した、小・中学校、幼稚園及び児
616 童館等を同一敷地内で、それぞれが連携しやすい教育環境を整備すること、また防災拠点としての強化を図る
ことで、学校を主軸にまちを再生する取組

○鶴住居地区：『学校を核にまちを再生する』

複合機能：小学校、中学校、鶴住居児童館、鶴住居幼稚園、避難所

予定生徒数：小学校 12 クラス、中学校 6 クラス

建築着工予定：平成 27 年 6 月

開校予定：平成 29 年 4 月（最終工事竣工は平成 29 年 3 月）

<事業の目的>

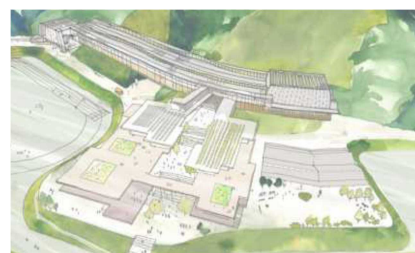
①防災拠点としての施設づくり

小中学校、幼稚園、児童館の 4 つの施設を、安全な高台の同一敷地内で、それぞれが連携しやすい教育環境を整備。

また、防災拠点としての強化を図るため、高台への避難経路を児童生徒や地域住民にも日常的に利用して貰えるよう、登下校動線、地域開放動線に配慮した計画としている。

②街づくりの核としての学校づくり

新たに学校等が再建される場所は街に近接しており、鶴住居駅や住宅・商店機能、学校施設が集約された地域コミュニティの核となることを目指している。地域住民、小学校体育館の地域開放や学校敷地内にある白山神社への参拝などを通して、訪れやすい計画としている。



復興のイメージ図



基本設計最終案

(素案)

617 ④専門性のある人材や地域住民との連携による教職員の負担軽減

618 様々な人材が集まりやすい特徴を活かし、学校活動や課外活動において、専門性のある
619 人材や地域住民を活用し、児童生徒に従来より高度な専門知識に触れる機会を創出したり、
620 学校の安全性を高める仕組みを検討するなど、教職員の負担軽減を図っている学校があっ
621 た。

622

623 (専門的な知識、技能を持った専門性のある人材や教育資源の活用)

624

【14. かほく市立宇ノ気中学校】

625 ・学校敷地内に学校の体育館は整備せず、社会体育施設として体育館を整備。体育館は指定管理者
626 制度※1により、総合型地域スポーツクラブが運営しており、学校の授業や部活動等に使用している。

627 ○学校と指定管理者との連携した取り組み

- 627 ・学校の部活に準じた形で、指定管理者が放課後に中学生への指導も実施している。もともと、
628 中学校にサッカー部はなかったが、指定管理者の運営するサッカークラブに参加することができる。
- 629 ・部活動の顧問が担当スポーツが得意でない場合、指定管理者のコーチを派遣する。
- 629 ・部活動に入る生徒は、全員指定管理者の会員になっており、部活中ケガ等にも保険が適用される
ため、安心して活動が可能である。

630 ○背景

631 当時、町には正式なバスケットボールコートをもつ2面有する体育館がなく、また、立ち上がって間も
632 ない総合型地域スポーツクラブ※2の活動拠点(クラブハウス)がなかったことから、中学校の改築
を機に社会体育施設との複合化を計画した。

633 ○管理運営状況

634 学校施設の管理は学校が、社会体育施設の管理は指定管理者制度にて総合型地域スポーツクラブに
635 委託している。なお、学校開放を含め、施設の貸し館調整や入退出の管理は指定管理者(総合地域
スポーツクラブ)が行っている。

636



640 総合型地域スポーツクラブの外部講師
641 の指導の下でヨガを体験する生徒

※1 指定管理者制度

637 公の施設の管理運営を行う民間事業者等を指定管理者として
638 指定することにより、民間のノウハウを活用しつつ、サービスの
向上と経費の節減等を図ることを目的とした制度。

※2 総合型地域スポーツクラブ

639 人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプ
640 のスポーツクラブで、多世代・多種目・多志向という特徴を持つ、
641 地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

642

643

644

644 (他施設の職員や地域住民と連携した安全性の強化)

645

【8. 志木市立志木小学校】

646

647 ○学校と指定管理者との連携した取り組み

- 648 ・オープンな学校施設し地域の目で子供を守るといった防犯対策の趣旨については、予め地域と話し合い
理解を得ている。
- 649 ・見通しのよいガラス張りの校舎とし、児童と公民館・図書館利用者の動線も明確に区分していない。
- 650 ・児童生徒と利用者の動線が交わりやすい場所には警備員を配慮し、職員室も校舎内を見渡ししやすい
位置にした。
- 651 ・学校職員だけでなく、他の施設の職員も一緒に児童を見ている。人の目が届きづらい場所は監視カメラ
や電子錠等に対応している。

652

<その他 防犯対策>

- 653 ・学校の安全主任は図書館・公民館とも適宜打合せを実施、
- 654 ・全職員・教職員がPHSを携帯 ・常駐警備員の配置、
- 655 ・施設の管理運営委員会において危機管理マニュアルを作成、
- 656 ・防犯監視カメラの設置(20台) ・利用者は入館証を着用
- ・3施設合同の避難訓練(年に3回)



見通しのよいガラス貼りの校舎

(素案)

657 ⑤効果的・効率的な施設整備

658 (敷地の有効活用)

659 都心の商業エリアや住宅が密集したエリアにおいて、敷地等の有効利用や財政負担軽減
660 の観点から、学校の統廃合や改築を機に、学校施設と地域に需要のある公共施設とを複合
661 施設として整備している事例があった。

662 【都心の商業エリア】

663 敷地の確保が難しい商業地において、学校の建替えと併せ、地域に不足していた幼稚園、児童館、
664 図書館を高層化して整備。(1. 千代田区立昌平小学校)

665 学校統合を契機に、市内有数の中心的立地を有効活用することとし、地元住民から要望が高かった、
666 保育所、高齢者福祉施設、商業施設等との複合施設として整備。(7. 京都市立京都御池中学校)

667 【住宅の密集したエリア】

668 老朽化した学校を改築する際に、地域包括支援センター等を併設させた他、周辺に地区プールが未
669 整備だったことから、学校プールを地区プールとして日常的に開放しやすいように利用者専用の動線
670 を設けるなど、学校の安全性を保ちつつ施設の有効活用を図った。(4. 目黒区立碑小学校)



671 商業エリアに複数の施設を
672 高層化して整備
673 (千代田区立昌平小学校)



674 大通りに面した部分に
675 商業施設を配置
676 (京都市立京都御池中学校)



677 地区プールとしても活用
678 (目黒区立碑小学校)
679 (目黒区教育委員会提供)

679 (既存施設の活用)

680 既存の学校施設の余裕教室等を活用し、地域に必要とされている公共施設等と複合化し
681 ている事例があった。

682 【【11. 宇治市立小倉小学校】 余裕教室を活用して高齢者福祉施設を整備

683 ・市内に高齢者福祉施設の整備を検討していた際、小倉小学校に12教室以上の余裕教室があったことから、
684 その余裕教室等を改修し、デイサービスセンター、地域包括支援センター等を整備した。

685 ・小学校と高齢者福祉施設の区画や動線は分けているが、非常時の避難経路を確保する観点から、壁の設置や
686 扉の施錠などによる明確な区分はしていない。また、敷地内で児童とデイサービスの送迎車とが接触をしない
687 ように、デイサービスの送迎時間を児童の登下校と重ならないように配慮している。

688 ・学校と高齢者福祉施設に係る消防法などの適用に違いがあるが、より厳しいデイサービスの規定に合わせて
689 整備をした。また、電気・水道等は施設ごとに系統分けし、メーターを別にして引き込んだ。



690 余裕教室を活用し
691 デイサービスセンター等を整備



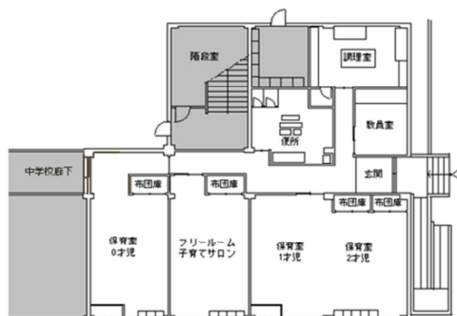
692 高齢者が快適に過ごせるように、
693 外壁や床なども温かい雰囲気へ改修。

(素案)

【6. 世田谷区立砧南中学校】 余裕教室を活用して保育所を整備

- ・砧南中学校の周辺は待機児童が多かったことから、余裕教室等を改修し保育所を整備した。
- ・保育所は中学校の校庭にも面しているため、ボール等が飛んできて事故等が起こらないように、校庭に面する側にはネットを設置している。
- ※
- ・消防法に基づく消防用設備の規制が既存建物に及ばないよう、学校部分とは耐火構造の壁で区画。また、扉を設置し避難時には通り抜け可能にした。また、保育所には調理室やトイレが必要であるため、床を高くして床下に水回りの設備を整備した。

※参考資料参照



中学校の1階部分の一部を利用して保育所を整備



水回りの整備のために床を高くするとともに、中学校との間の扉を設置



中学校校庭との境界に防球ネットを整備

(PFIを活用した整備・運営)

複合化する施設の種類や数などにより、比較的規模の大きい複合施設となる場合などは、PFIを活用し、民間のノウハウによる施設のコンセプトの実現や、財政負担の軽減、また学校の教職員負担の軽減にも繋がっている事例があった。

※PFI (Private Finance Initiative (プライベート・ファイナンス・イニシアティブ))

公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法

【7. 京都市立京都御池中学校】

中学校、保育所、高齢者デイサービス、賑わい施設(商業施設)、拠点備蓄倉庫等を複合施設として整備。市内初の大規模複合施設の整備に民間ノウハウを活用するためPFIで整備

○PFI導入の主な目的と効果

- ・財政支出の削減・平準化(従来方式よりも整備費を約30%削減)
- ・限られた敷地、事業期間、事業費等の厳しい条件下、民間事業者が競合し提案力を競うことにより、事業コンセプト(複合施設の目的)を高いレベルで実現。
- ・設計から維持管理まで一括で発注することにより、意思疎通も含め効率的に事業を実施。
- ・安心かつ効率的な複合施設の維持管理業務の実施により職員等の負担が軽減。

○PFI導入のデメリット

- ・通常の学校施設整備よりも契約手続き等が複雑であり、時間も要する。
(学校施設単体よりも規模が大きいため、政府調達契約となった。)
- ・修繕等の可否について、学校と教育委員会だけでなくPFI事業者を通す必要がある。
(PFI事業者で対応すべき修繕かどうか判断を要するため)



京都市初の大規模な複合施設整備となった京都御池中学校を含む高層の複合施設

(素案)

722 (3)複合化の課題への取組事例

723 ①地方公共団体内の部局間の連携、地域との合意形成

724 学校施設と他の施設との複合化にあたり、地方公共団体内では各施設を所管する複数
725 の部局が連携し、施設整備計画の策定や、管理・運営方法について検討し、地域住民の意
726 見を聴く機会を設けるなど、地域との合意形成を図って整備を行った事例があった。

727 【8. 志木市立志木小学校】

728 ○庁内プロジェクトチーム（平成9年5月から平成13年3月まで）

729 市内部においても、関係各所の所属長により構成するプロジェクトを設置し、特に行政面からの
730 問題点等を研究・検討した。

731 関係課所：企画、財政、生涯学習、学校教育、公民館、図書館など
実施回数：15回

732 ○市民検討委員会（平成11年1月から平成13年3月まで）

733 計画策定にあたり、公募を含めた関係団体の市民で構成する、「志木小学校・公民館・図書館複合
734 施設検討委員会」を発足し、市民・関係者の意見を反映し計画策定を進めた。

735 検討内容：先進事例の研究・視察や基本構想策定、基本設計より実施設計まで具体的な施設計画を検討
736 全体会：複合施設を総合的に検討（全12回）

737 分科会：それぞれの立場から複合施設の在り方を検討するため、下記分科会を設置。（全10回）

- 738 ・教育部会・・・学校側から見た複合施設の在り方の検討
- 739 ・複合部会・・・生涯学習施設側から見た複合施設の検討
- 740 ・管理運営部会・・・施設の管理運営について検討

741 ○その他

742 基本計画から、市民・関係者で組織される複合施設検討委員会や、庁内の関係課長で構成するプロジェ
743 クトチームなど、関係者間において必要な情報や意見の交換を行うなど、計画立案過程を重視した。



744 市民・関係者と行政との検討会の様子

745

746

747

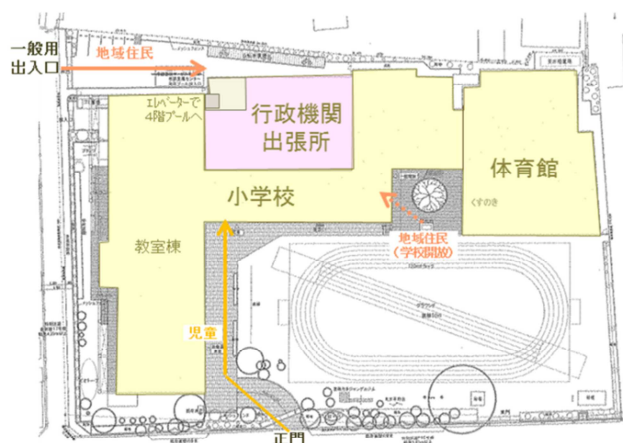
(素案)

②施設設計上の工夫

学校を含めた各施設の運営を阻害しないという観点や、児童生徒の安全性を確保するという観点から、同一の敷地・建物であっても、学校と他の施設とを壁や間仕切り等で明確に区分したり、児童生徒と施設利用者等との動線が交わらないようにしている学校があった。

【4. 目黒区立碑小学校】

- ・敷地及び建物への入口が、学校施設とそれ以外（プール、行政機関出張所等）と別々に確保している。
- ・学校が4階のプールを利用する場合は、常時施錠してある4階の扉を教員が開け、児童を通している。
- ・学校開放を行う体育館やホールは1階に集中させ、学校開放用の入口を設けている。
- ・また、開放部分とそうでない部分の間に施錠可能な扉を設置している。



学校と地域の動線を分離している



プール、行政機関出張所等の入口

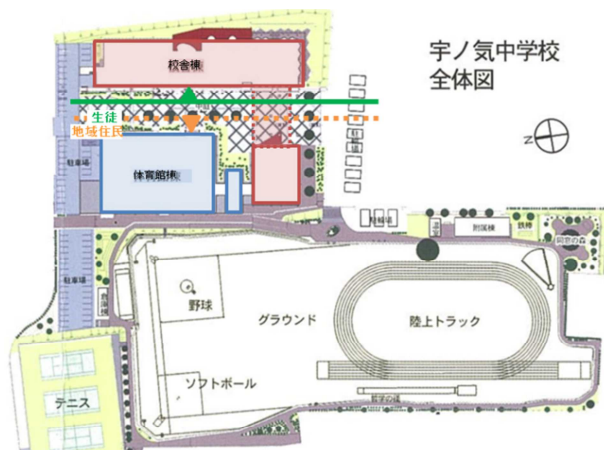


開放部分を仕切るための扉

一方、地域の実情を踏まえ、施設内での日常的な交流を促したり、見通しを良くすることで防犯性を高めるという観点から、施設上は学校と他の施設との区分を明確にせず、代わりに敷地への視認性を十分に確保したり、施設ごとの領域性の強化、警備員や監視カメラの配置、利用時間帯の調整等により対応している学校などがあつた。

【14. かほく市立宇ノ気中学校】

- ・建物へのアプローチは開かれたつくりとしているが、これは、地域住民と生徒との触れ合いを生み、防犯上の利点もあると判断して実施したもの。
- ・学校職員室を両玄関や生徒、地域住民の出入りを見渡せる位置に計画し、体育施設側からも玄関アプローチを見渡せる配置としている。



学校と地域の動線をあえて一緒にしている



学校（左側）、市立体育館（右側）
共用のアプローチ